

文・猪飼尚司(デザインジャーナリスト)

ミラノ、ロンドン、マイアミ、コペンハーゲンこそがデザインを中心地だと信じる人はいまだに多い。しかし、近年のアジアのデザインシーンの成長は目覚ましく、各地で活発な動きが見られている。なかでも独自のアプローチで注目を集めているのが、インドネシア・バリ島で開催されているデザインイベント『Jia CURATED(ジア・キュレーテッド)』だ。クリエイターらによる作品展示やインスタレーショ

ン、トークイベントなどに国内外から注目が集まる。2022年にはじまった本展がほかのイベントと大きく異なる点は、参加者や来場者が会場で新たなコミュニティをつくり、その相互支援と協業によって社会的なつながりと集団的な創造性を促進しているという姿勢にある。

原点にあるのは、インドネシアの慣習「ゴトン・ロヨン」。これはジャワ語で「一緒に仕事をすること」という言葉にルーツを持つ

とされる。ともに助け合い、価値を分かち合い、社会を育てるという意識がインドネシアには根強い。ゆえに、現在でも伝統的な儀礼や行事が尊ばれ、同時にこれらの伝統的な営みと紐づく、社会的持続性を保つものづくりが数多く残っている。

この地域特性を現代デザインの振興へとつなげるべく、ジア・キュレーテッドでは国内外のクリエイター間で、積極的にアイデアを共有。そのひとつの成果

として、8月の次回開催に先駆けて、東京で特別展が行われる。

本展には、オン・チェン・クアン、アルヴィン・ティー、スレダビューティックをはじめインドネシアの9組のデザインチームが参加。伝統の手仕事や工芸の素材を活用しながら、現代の暮らしに見合うかたちにデザインされたプロダクトが並ぶ。また、会期中に倉本仁とシカイ・ツェン(台湾)を招いたトークセッションも予定している。

## インドネシアの相互支援の精神を、現代デザインの発展に活かす

### 『Road to Jia CURATED - Tokyo Edition』

4/2~19 (Place) by method

◎ 12時~19時

無休

入場無料

<https://placebymethod.com>



右:ファスナーをつなぎ合わせることで、複雑かつ有機的なフォルムを実現したオン・チェン・クアンの照明「Kelopak(クロパック)」。左:アルヴィン・ティーによる、伝統的なラタン家具のスタイルを彫刻的なアプローチで再構築したソファ「Linger(リンガー)」。



シェードの傾きを変えて、光の陰影と戯れる

### 「LOJA ペンダントランプ」

バウハウスの精神を受け継ぐドイツの照明ブランド、ミッドガード・リヒト。可動式タスクライトを得意とする1919年創業の老舗から、セバスチャン・ヘルクナーが新作「LOJA(ローヤ)」を発売する。往年の女優が被るようなツバの大きな帽子「カブリーヌハット」。それを彷彿させるシェードを光源に直接載せたユニークなもの。好みや空間に応じてシェードの傾きを調整し、多様な光と影のバランスを自在に楽しむことができるアイテムだ。



写真のφ110cm(¥365,000)と、φ90cm(¥280,500)の2種。今夏販売開始、予価。

ソルフォルム  
☎048-969-4535

自分好みに仕上げる、全パーツが交換可能な椅子

### 「レイアウトアームチェア」

量産が可能で堅牢性に優れたプラスチック製シェルチェアの特長をそのままに、より個性的で柔軟な感覚に仕上げたのは、フランス人デザイナー、ジュリアン・ルノー。ルノーがHAYから発表したレイアウトアームチェアは、すべてのパーツが分解、交換可能。目的や気分に応じて座面の色や素材を多様にアレンジすることももちろん、脚も木製、スチール製、回転式、キャスター付きと、シーンや暮らし方に合わせて取り替えることができる。



布張りやレザー、合板の座面など多彩な組み合わせが用意される。¥68,200~

ヘイ  
[www.hay-japan.com](http://www.hay-japan.com)